

第1回文化芸術推進基本計画推進委員会

議事要旨

日時：令和7年3月19日（水）
午後6時30分～7時40分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
文化芸術の推進について
 - ① 講話 声楽家 岡部 武彦氏
 - ② 意見交換
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

【配布資料】

- 1 文化芸術推進基本計画進捗状況調査票
- 2 文化芸術推進基本計画庁内推進委員会における意見

出席者（敬称略）

委員長・・・新谷尚紀（昭島市文化財保護審議会委員）
副委員長・・・児玉 真（一般財団法人地域創造）
委員・・・大澤俊則（昭島市文化協会）、上野美樹（昭島市民会館文化事業協会）、上岡健人（昭島郷土芸能協会）、堀井真理子（一般社団法人昭島観光まちづくり協会）
欠席（本間ゆかり（公募市民））
事務局・・・池谷企画部長、村山企画政策課長、中村企画調整担当係長、小島主任
磯村生涯学習部長、立川市民会館・公民館長

1 開会

2 議題

文化芸術の推進について

委員長・・・ それでは、本日の議題であります「文化芸術の推進について」につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局・・・ 議題としてあげさせていただきました、本日の講話及び意見交換について御説明させていただきます。

本委員会におきましては、計画掲載事業の前年度実績を踏まえた個々の評価に終始するのではなく、特定の専門分野で活躍する有識者を委員会にお招きし、10か年計画の中間年の見直し、次期計画の策定に向けた新たな発想につなげる

ような意見交換等が出来ればと考えております。

今回はその有識者としてしまして、声楽家 岡部武彦先生をお招きし、広く文化芸術の推進についてお話しいただき、委員の皆様と意見交換をしていただきたいと思いますと考えております。

岡部先生は国内の音楽大学声楽科を卒業後、ウィーン国立音楽大学声楽科を特待生として修了された後、スペインのバルセロナを拠点に、州立音楽院での指導のほか、ヨーロッパ各地で音楽活動をされていました。平成20年に拠点を日本に移された後も、ヨーロッパやアジア各国での指導に加え、国際コンクール審査員や数多くの国際音楽祭音楽監督も務められ、近年はウィーン・フィルのメンバー等とコンサートを行うなど、音楽の分野において幅広い経験と高い見識をお持ちでございます。

なお、昭島市におきましても、岡部先生のお取り計らいもあり、年明けから「ウィーン ヨハン・シュトラウス管弦楽団 ニューイヤーコンサート」、そして、羽村市、奥多摩町、檜原村との連携による「子ども国際交流音楽祭」が開催され、大変多くの市民の皆様からお喜びの声をいただいております。

委員長・・・ それでは岡部先生よろしく願いいたします。

岡部講師・・・ ただいま御紹介いただいたとおり、私は声楽専門でしたが、現在は大学で教職をするなど声楽の指導を中心に、1年の3分の1から半分位は国外で活動しています。大学時代から留学に行き、一流のものに触れてきました。25歳からは、毎年ウィーンから演奏家をお招きしてコンサートや子ども向けの交流会を開催しており、その一環が「子ども国際交流音楽祭」です。35年弱の活動の中で、読売新聞や中日新聞の交流事業へのアドバイスや、交流コンサートの監修なども行っています。年明けの「ウィーン ヨハン・シュトラウス管弦楽団 ニューイヤーコンサート」も、70周年という記念すべき年に参加することができ、うれしく思っています。

私は、一流のものに触れるということに常にこだわっていますが、それは音楽に限りません。スポーツの分野においても、大学の付属高校のサッカー部とFCバルセロナのユースチームとの交流事業にも携わったことがあります。

前回の委員会での白川先生の講話を拝見しましたが、文化についての考え方は先生と同意見です。私は別の自治体で委員を務めたことがあり、その市ではマイスター制度があったのですが、実際には機能しておりませんでした。それぞれの分野の専門家がいても、束ねる方がいないと機能しません。そのため、1番大事なのはアドバイザーがいることだと考えています。

昭島市文化芸術推進基本計画も拝見しましたが、昭島市でも国際的な視点で文化芸術を推進していくことが必要ではないかと思います。ソーシャルメディアを通じて市の魅力を発信することは有効ですが、誰がそれをやるのかという問題もあります。また、この計画に載っているアンケート調査を見ると、「あなたが、これからやってみたいと思う文化芸術活動は何ですか」という質問に対し、音楽と回答している方が多いです。欧米では、経済的に不安定な時期に合唱団が増える傾向があります。今の世の中、生活も厳しくなっていますが、子ども国際交流音楽祭でも多くの方に参加していただいた合唱の分野にも、今後多くの方に参加してほしいと思っています。また、「文化芸

術活動をより活発にするには、特にどのようなことが必要だと思いますか」というアンケートでは、文化芸術に触れる機会を増やしてほしいとの意見が多いです。一流の音楽に触れる機会を増やすことができればと思っています。

子ども達や若者には、国際的視野を持つことの大切さを知ってほしいです。昭島市内にも多くの外国人が住んでいます。例えば、ヤングアンバサダー制度を使って、地域に国際的な視野を持った文化芸術分野のスペシャリストを育てる仕組みがあるといいと思います。子ども国際交流音楽祭では一流のウィーンの音楽に触れることができますが、そのような経験を生かして、音楽に限らず将来に繋げてもらえたらと考えています。実際に事業を開始して10年経ちますが、当時の参加者の中にも、現在第一線で活躍されている方がいらっしゃいます。市の行事に小さい頃から参加することで、将来、市の担い手になる方が出てくるかもしれません。

先ほども少し触れたソーシャルメディアを通じた市の魅力発信については、若者にアイデアを出してもらって発信していく仕組みが必要なのではないかと思います。その点では、国立市では若い人達を中心に、情報発信等の活動をされているので参考になると思います。子ども国際交流音楽祭やコンサート等のイベントの情報を、ソーシャルメディアを活かしてもっと広めてもらい、若い人達にも興味を持ってもらえるような切り口で積極的な発信をしていただきたいです。今はAIも随分進化していますし、新しい技術を取り入れながら工夫もできると思います。

一流の文化に触れる機会を創出することが大事だと思いますが、元々芸術文化が好きな人は、自分でお金を払って劇場に行ったりすると思います。今後は、研修という意味で若い方を対象に団体でコンサート等に行ったり、美術館や劇場へ団体で鑑賞に行くような機会を設けてもいいかもしれません。あるいは違った切り口で、食と芸術文化との融合体験ができるイベントを開催しても面白いですね。

最後に、私が芸術文化向上の視点で一番大切に感じていることをお話しします。それは「インパクト」を与えることです。特に子どもの頃に体験したことはとてもインパクトが強く、大人になってもその希少な体験や思い出は心に残ります。一流のものに触れられる昭島市独自の芸術文化プログラムを企画し、良質でインパクトのある活動やイベントを通して若い方にそれを体験してもらうことは、文化芸術分野のスペシャリストを育てるという意味でも、将来的に市のためになると思います。また、そのインパクトのある企画を若い方の視点で考え、実行していく仕組みも必要ではないでしょうか。

本日はありがとうございました。

委員長・・・ ありがとうございます。それでは、今の岡部先生のお話を受けて、皆さんに一人ずつ順番に御意見、御質問等を伺いたいと思います。

副委員長・・・ 昔は、一流のものに「出会い頭」で触れ、魅了されることでその世界に入っていくことが多かったのですが、情報があふれかえっている現代ではそれが難しいですね。その意味では、一流のものに触れる機会も意図的に作らざるを得ないのかもしれません。行政としては「出会い頭」を作るのではなく、もう少しターゲットを絞ったうえでイベント等を開催することが必要で

はないでしょうか。行政は常に公平でないといけないものですが、行政側でも何かしら突破口を作っていくことが必要だと思います。子ども達が自ら体験したことを誰かに伝えたいと思えるような仕掛けも大事ですね。以前、自分が関わった企画（高校生プロジェクト）では、ターゲットを絞るところから高校生達がアイデア出しをして企画を練っていました。企画の意図にピッタリはまるとは限らないため調整が必要だったり、色々そういうことを経験して、記者会見では自ら発表も行っていました。若い方が受け取りとしての体験ではなく、プレゼンターとして活躍し、その体験をまた違う誰かに伝えていく、市内の芸術団体もその仕組みを取り入れるといいかもしれません。

大澤委員・・・ 私は昭島市文化協会の美術部門で絵を描いていますが、周りも高齢者が多く、新しく入ってくる人でも 60 代だったりします。若者に焦点をあてることが重要だと私も思います。文化協会では民謡や生け花など古典的な会がとても多いのですが、なかなか新しい人が入ってこないのが現状です。もっと若い人にも活動を知ってもらえるような仕組みが必要だと感じます。

上野委員・・・ 私は昭島市出身で、現在は宮澤太鼓でアマチュアとして活動しています。その前はプロとして何年か経験しておりまして、それを生かして今活動を行っています。小学校 1 年生から和太鼓に触れていますが、若い頃からの積み上げてきた体験があるからこそ、今の活動に繋がっていると感じます。若い人や子ども達に成功体験を与えることが重要ではないでしょうか。SNS 等で和太鼓の活動を発信していますが、市内だけではなく市外の方からも問い合わせがあったりします。和太鼓やお囃子等は、見るだけではなく実際に体験することが、新しい発見に繋がると考えます。私自身、小さい頃から大人と一緒に事業を経験し、その体験を通して昭島市のことも好きになりました。若い人が文化芸術の分野で活躍し、その魅力を発信していく担い手になるには、子どもの頃からそのような機会に触れているかどうかが大きく関わっていると思います。

上岡委員・・・ 一流の、本物を知ることは重要だと思います。私は食品会社に勤めていたことがあります、その時感じたのは、本物の味を知ること、いいものを作ることができるということです。「インパクト」の話がありましたが、今日ちょうど、メジャーリーグのカブスとドジャースの試合をやっているので思い出しましたが、鈴木誠也選手が小さい頃に東京ドームでプロ野球の試合を観戦した時に、松井秀喜選手がホームランを打ったそうです。その体験が憧れに変わり、それが志に変わって同じプロ野球選手になったそうです。今日の話題との共通点を感じました。

この推進委員になってから 2 回ほど、富士見丘小学校の 4 年生の総合時間で郷土芸能を学ぶ授業があり、そこで話をさせていただきました。配布した資料にはふりがなを付けて読みやすくするよう工夫しました。また、お面や太鼓、獅子頭などに実際に触ってもらうことでとても盛り上がりしました。実際に見る、聞く、触れる、五感で感じとる体験がよかったのではないかと思います。「出会い頭」という言葉も出ましたが、そういうインパクトを与えられたかはわかりませんが、少なくとも実感として「楽しい」と感じてもらえるような授業を提供できたのではないかと思います。そのような体験や、誰にでもわかりやすい伝え方を意識することも大切ではないでしょうか。

堀井委員・・・ 子ども国際交流音楽祭はこれまで3市町村で10年前から開催されていて、今年度から昭島市が新たにに加盟したということで、今回私も初めてこの事業を知りました。近隣でせっかくそのような事業をやっていたのに知らなかったのがもったいないと思いました。いいイベントであれば、広域連携として、例えば他市がやっているイベントを昭島でやってもらい、子ども達がいいものに触れられる機会が増えるといいと思います。

先ほど上岡委員から話があった郷土芸能の授業は、実際に子ども達に郷土芸能に触れてもらう機会を提供したいと思い、まちづくり観光協会として郷土芸能協会に依頼をさせていただきました。子ども達にとって、とてもいい経験になったのかなと思っています。子ども達に限らず大人でも、本物に触れる体験は重要です。昭島市でも今後、多様な種類の芸術文化に、様々な手法で触れられる機会を沢山作っていただけたらいいと思います。

委員長・・・ 「ウィーン ヨハン・シュトラウス管弦楽団 ニューイヤーコンサート」と「子ども国際交流音楽祭」の2事業について、事務局から詳しく教えてほしいです。

生涯学習部長・・・ ニューイヤーコンサートについては、昭島市民向けのチケットを1週間優先して発売しましたが、発売当日に行列ができるほど人で、2時間でチケットは完売しました。昭島市で開催してくれるんだということで、とても好評でした。

ニューイヤーコンサートと音楽祭の2事業は、市民に一流の音楽に触れてもらう、市民に実際にやってもらう、という両方について叶えることができたと思います。シビックプライドの醸成のためにも、この催しは続けていきたいと考えています。

岡部講師・・・ 以前、私が関わった事業で、この近辺ではないのですが、サッカーのFCバルセロナの方が一日だけ指導に来たことがあります。会う人会う人に「また来てほしい」と言われ、一流に触れることにはすごい影響力があると感じました。郷土芸能のことにしても、太鼓のことにしても、ドイツ語で「ビタミンB（ベー）」という言葉もありますが、人と人との繋がりやコミュニケーションがとても重要だと思っています。前回の委員会の中で、企画部長が昭島市の70周年記念事業を実施する際に誰に頼んで誰を呼ぶかということが重要だとおっしゃっていましたが、予算的な制限はあるかと思いますが、人と人とのネットワークを使って、工夫もできるのではないかなと思います。以前、読売新聞のカルチャーセンターで芸術監督をしたことがありますが、中国や台湾に行き、日本の伝統的な太鼓、琴、獅子舞等を披露するイベントでした。伝統文化を通じて海外の人と交流することで、自分達がプレゼンしたものが受け入れられたという喜びがありました。海外の人に喜んでもらったことで、自分達の文化への誇りも生まれるのだと思います。

副委員長・・・ 芸術の世界ではアートマネージャーやプロデューサーが育たないという問題があります。伝統芸能の事業のコーディネーターを育てることも課題になっていますが、どうマネジメントしていくかが問題だと思います。昭島市でどう育

てていくかというのを市として考えることが重要です。まずは外に対してどう発信していくかを意識すること、そのジャンルはなかなか1つに選べないのですが、だからこそ、順番にやっていくしかないと思います。昭島市は伝統芸能が特に濃く残っているのが特色だとは思いますが、小金井市のように自治体が支援している例もありますので、他市の事例を参考にして進めていくのがいいかもしれません。

委員長・・・ ありがとうございます。

3 その他

委員長・・・ 日程3その他について、事務局の方から何かございますか。

事務局・・・ 本委員会の成果物ですが、前回の白川先生、そして今回の岡部先生からご講話をいただき、意見交換もしておりますので、その中から次期計画に繋がるようなお話を抽出し、報告書としてまとめていきたいと考えております。報告書の案が出来上がりましたら、委員長に内容をご確認いただきたいと思います。完成物につきましては、委員の皆様にお配りいたします。

また、本日の議事要旨につきましては、後日、案を送付いたしますので、修正等あれば事務局にご連絡ください。委員の皆様からの修正を反映させたいうえで、公開とさせていただきます。

4 閉会

委員長・・・ 以上で、第1回昭島市文化芸術推進基本計画推進委員会を終了します。